

県教育委員会における
ヤングケアラー支援を実現

公明党 鈴木ひでし



職員向けのリーフレットが完成しました

いがしまれ
ある言能性がありま
小学6年生の約15人に1人が
ヤングケアラーは、大
人に代わって日常的に家
族やきょうだいの世話な
どを行う祭、年齢や成長
学び、育つしていくために
は、過度の家事や介護と
いった重い負担を日常的
に負うことがないよう、
社会全体で支援していく

に見合わない重い責任や
負担を負うことで、学校
に行けない、宿題や読書
をする自分の時間が取れ
ない、部活動ができない
など、子どもの権利侵害
をして実態を社会が知ら
県に更なる対策を要望
しかし、この問題の本
質は「ヤングケアラーを

が懸念される問題です。N○・62でもお伝えしましたが、国が「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態をより正確に把握するため、令和3年度に厚労省と文科省が連携して全国の小学生を対象に行つた実態調査では、小学6年生の6・5%（約15人に1人）が「世話をしている家族がいる」と回答し、頻度は「ほぼ毎日している」が最も多く、次いで「毎日している」と「数回している」とあります。この実態調査結果を踏まえ、県では、この問題に対する理解を深めていくことを目的とした取り組みを行なっています。

10

モットーは「まかせて安心!
いのちと生活を守る!鈴木ひで

第109代神奈川県議会副議長、県監査委員、公明党県議団団長などを歴任。現在、建設・企業常任委員会、共生社会推進特別委員会

IP <http://www.hideshi-suzuki.com/>

どもたちの支援に役立つものと思います。今後も県並びに教育委員会の対策をしつかり見守ってま
いります。